

第5回新城市総合計画審議会 会議録

日 時：平成31年3月7日（木）午後1時30分～午後2時27分

場 所：新城市役所 3階 政策会議室

出席者：審議会委員9名（欠席5名）、事務局5名

1. 開会

審議会の会議録署名人を2名指名した。

2 会長あいさつ

皆さんこんにちは。今日は第5回、最後の審議会となりました。

本日は内容について確認していただいた上で、基本構想（案）について、市長に答申をさせていただくことになっております。

内容についてはそれぞれ確認をされているかと思えますし、これまでの審議会でご意見等賜りました。その内容を大方反映させているものになっているかと思えますし、今日をご確認をいただきまして、最後の取りまとめをしていきたいと思えます。

限られた時間でありますけれども、最後までよろしく申し上げます。

3 協議事項

(1) 第2次新城市総合計画 基本構想（案）について

- ・序論・基本構想（案）について

事務局より資料に沿って説明。

【質疑応答】

委員)

製本する際にはレイアウト等はきちんとやられますか。

事務局)

はい。レイアウトはもちろん、写真やイラストも含めて行います。また、今西暦と和暦を併記しておりますが、4月1日に新元号が発表されましたら、それに合わせて表記を修正してまいります。

委員長)

そのほかに意見はありませんか。

(意見する者なし)

それでは、本審議会としまして第2次新城市総合計画の基本構想の決定をしたいと思えます。本日審議しました基本構想について、異議ありませんでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

ありがとうございました。本審議会として第2次新城市総合計画基本構想を決定します。

続きまして、答申(案)について事務局からの説明をお願いします。

- ・答申(案)について
事務局より答申(案)を一読。

委員長)

ただ今の答申(案)につきまして、意見等ありましたらお願いします。

(発言する者なし)

それでは、市長への答申につきましてはただ今説明のありました案としたいと思いますが、これに異議ありませんでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

ありがとうございました。本審議会として答申を決定します。

続きまして、協議事項(2)第2次新城市総合計画 基本計画(案)に入ります。事務局からの説明をお願いします。

- ・基本計画(案)について
事務局より資料に沿って説明。

【質疑応答】

委員)

56、57 ページ、人材ビジョンの「公共私を支える人材となります」については、前回審議したのでしょうか。「ひと」「ちいき」「まち」が大きな柱となっているのはいいのですが、57 ページの図の中の「公」と「私」はいいのですが、「共」の使い方があっていいのでしょうか。「私」はひとですよね。「公」はまちで、「共」はちいきを指しているということですよ。この「共」の使い方はこれでいいのでしょうか。

どのような考えでこのようにしたのでしょいか。

事務局)

基本構想の39 ページをご覧ください。前回の審議会で「公共私がわかりづらい」と意見をいただきましたので、注釈をページの一番下に掲載しております。公的機関による「公助」、地域コミュニティや組合などによる助け合いの「共助」、自分の事は自身で対応する「自助」と掲載しております。こうしたところの「共助」の意味を踏まえまして、57 ページの図で「共」について、地域・地

縁組織、地域活動団体と図示させていただいております。

委員)

「共」という言葉の意味は、地域という意味があったのか。公共としては使っていますが、どうかと思いますが、注釈をつけておればいいのかと思います。

委員長)

今ご指摘いただきました 39 ページの地域コミュニティ、これが地縁組織、地域活動団体と、近年で言いますと NPO 法人等も入ってくるかと思いますが、このあたりの言葉遣いは統一したほうがよろしいかと思います。例えば組合と書いてありますが、組合が何を指しているのでしょうか。労働組合でしょうか。だとするとこれが共助に入るかは微妙です。

57 ページの「共」のところが共助であるならば、39 ページと表記を統一したほうがよろしいかと思います。57 ページの「地域・地縁組織、地域活動団体」というのは、何となくわかっているようでわかっていないので、地域という言葉は除いて地縁組織とか市民活動団体、新城の事情に即して整理をしていただいて 39 ページの注釈も直したほうがよろしいかと思います。

委員)

5 点意見を述べさせていただきます。

まず、55 ページの (イ) ICT を活用した行政運営の推進に「データ重視の政策形成を推進します。」とありますが、データ重視もいいのですが、ややもするとこれが数字の論理だけで進んでいってしまうと、地域というのは小さいところも大きいところもあるので、データだけで大きなところに引っ張っていってしまうと地域全体の均衡というところもあるので、あまりデータ重視ということを書いてしまうとそのあたりが気になります。

続いて、59 ページの「情報技術でひと・ちいき・まちをつなげます」と目標がありますが、これからの時代こうなっていくとは思いますが、逆説もあって、情報技術ばかりでなくて、生のコミュニティ、人と人との本当の生のコミュニティがだんだん薄れていくことが、基本構想でうたっている人の孤独化を防ぐというところとの違いも心配になってきます。

それから、66 ページの人口の年齢構成のところですが、理想が書いてあって、「つぼ型のピラミッドから釣鐘型のピラミッド」というのは非常に難しい目標であるかと思いますが、ここに書いてありますけれどできないことを書いてしまっているのではと思います。必要なことではあります、大変なことだと思います。これに関する政策をよっぽど強くやっけていかないと成し遂げることができないと思いますから、出生率や人口の流出など様々な課題がある中で、バックとなる方針・施策があるのかというところの確認です。

続いて 71 ページの病院の関係でありますけれども、色々な協力体制でいかに

るを得ないというのも、この地域の実情としてわかりますけれども、個人的に経験したことがありますして、連携というのが本当に大丈夫なのかと思いました。自分が9月に病気になりまして、救急車を呼んだのですが、結局、市民病院では診ることができなくて豊橋に転送され、何とか間に合ったということがありました。後から生きるか死ぬかの瀬戸際であったと聞きました。それぞれの立場のところでは対応できているかもしれませんが、連携という面で見ると誰が判断するのかということを経験の中で感じましたので、お伝えさせていただきます。

最後に、110 ページです。成果指標の項目に「酒米（山田錦）の生産拡大」とありますが、山田錦は愛知県でこれから認定をされて、いいと思いますが、「等」を入れておく必要があると思います。酒米の生産拡大については山田錦だけではないのです。愛知県で認定された夢銀河という品種もありますので、並列で書くのか、山田錦等と書くのか、担当課と調整をしていただければと思います。

それから、ここに付け加えていただきたい項目がありまして、農業にとって非常に重要な項目、一番重要なところがありまして、それは農地の活用です。農地の活用、水田を含め75歳から80歳の現役の方がこの先5年、10年後にリタイアした際に、次の人がいない。その為、新規就農者を入れると動いていますけれども、それだけではなくて地域の中の60ないし65歳の現役をリタイアされた方を含めてどうやって農地を活用していくのか。また、ややもするとあきらめざるを得ない農地も出てくると思います。農業振興対策室でやろうとしてなかなかできないのは、ゾーニングになりますが、今国の方で人・農地プランという計画がありまして、農地の活用が一番大事な案件ということで打ち出されていますので、検討をしていただきたいと思います。

事務局)

最初の「データ重視の政策形成を推進します」のところ、それから「情報技術でひと・ちいき・まちをつなげます」のところにつきましては、数字の論理だけではないこと、それから人と人との生のつながりも大事であるということはおっしゃるとおりでありますので、他の部分でそうした表記もありますので、誤解を受けないようなものにしていきたいと思います。

66 ページのバランスのとれた年齢構成への転換の少子高齢のつぼ型から釣鐘型のピラミッドにつきましては、国が進めております地域創生法に基き2060年までの長期プランとなっておりますので、バランスのとれた年齢構成への転換を進めますについては、今後ずっと継続していくものになると思います。人口構成を変えることは長い道のりになりますので、今後も続いていく政策になります。

病院の連携についてですが、次の病院に行くときには救急車を呼んで移動することはあります。医療機関の連携については、重要なことなので、来年度この基本計画に基づいて様々な事業を考えていきますので、その中でフォローしてい

たいと思います。

110 ページの農業のところ、山田錦のところに「等」を入れるべきということ、農地の活用が最も重要であるから言及すべきということにつきましては、所管課と確認をさせていただきます。

委員)

人口バランスのところ、国の方針でという説明がありましたが、国の方針に沿って成功した事例があるのか、是正されていないのが現実ですので、国が言うからではなくて、新城市としてどうするのかという考えがないと、実現不可能になってしまうと思います。

事務局)

先ほどもお答えさせていただきましたが、国もそうですが、新城市の人口ビジョンにもこのことがうたわれております。人口が減少していくことは当たり前ですが、その中で重要なことはたとえ人口が減少したとしてもバランスが取れた人口構成、つぼ型ではなくて幼少期からお年寄りまで差がないようなピラミッドを創っていくということを常に念頭に置いて事業等を考えていかなければいけないということで、そのために必要な施策を行っていくことが重要となってきます。

委員長)

バランスのとれた年齢構成への転換が言いたいということですね。

事務局)

そうです。たとえ人口減少が進んでもバランスのとれた年齢構成にしたいということですね。

委員長)

釣鐘型のピラミッドという言葉は必要ですか。別になくてもいいような気もしますが、バランスのとれた年齢構成を作るためには、釣鐘型のピラミッドにという説明がいりますね。

事務局)

先ほども説明をさせていただきましたが、冊子にする際にイラスト等を入れさせていただきます、釣鐘型とはどういう形かわかりやすく工夫をしていきたいと思っております。また、人口については新城市人口ビジョンや新城市まち・ひと・しごと創生総合戦略の中で、人口の個別計画をたててしっかりと打ち出してまいりたいと考えております。

委員長)

まち・ひと・しごと創生総合戦略もそれぞれの市町村が独自で見直しをしていくことが求められていますけれども、総合戦略で人口については書かれていくと言われましたけれども、これから総合計画の中でより具体的に進めていくとなると、総合計画と総合戦略との整合性をもって総合戦略の見直しをしていくという

ことよろしいですね。

事務局)

はい。

委員長)

他に委員の方からよろしいでしょうか。

(発現する者なし)

内容については、異議はありません。注意してほしいところがありまして、修正箇所を後でお渡ししますが、表現を修正していただきたいところがありますので、再検討をお願いします。

一例として、66 ページの戦略 1 ですが、戦略ですので大変重要なところですが、「そのため、次の効果が見込まれる事務事業を計画、実施を重点的に進めます。」と書いてあります。効果が見込まれる事務事業を実施しますと書いてあって、その下に四角で囲ってありますが、これは戦略 1、2、3 と全てに共通した書き方となっていますが、ここはどちらを書いているのか、効果を書くのか、事務事業を書くのか。当然この文脈からすると事務事業を書かなければいけないところですが、事務事業ではなくて期待される効果を書いている箇所もあったりしますので、効果を書いてそれを目指してこうした事業をやるというのであれば、表現を統一しないといけません。67 ページの四角の中の 4 つ目の点のところ、「高齢者やその家族と、人や地域がつながりの創出」と書いてありますが、人や地域のつながりの創出なのか、その前の高齢者やその家族とはどこにかかるようになるのか、わからないところがあります。事業を言いたいのか、効果を言いたいのか全体的に精査をしてください。

委員)

63、64 ページになりますが、施策一覧が後ろの計画につながっていくと思いますが、この一覧と計画のつながりが見づらくなっています。一番上に①目指すべき姿②政策目標③施策とありますが、全て横並びにして枠で囲うなどして見やすいようにしていただきたいと思います。そうすることで一覧で自分が興味あるところが見やすくなると思います。

委員長)

ほか、よろしいでしょうか。皆さんからご指摘いただいたところについては、関係各課と調整を図る必要なものもありますので、修正をしていただきたいと思います。

ありがとうございました。その他については事務局からありますか。

事務局)

冊子を作成する際に、資料編を最後に作成し、注釈等もまとめて入れさせていただきます。

委員長)

以上で本日の協議事項を終えます。
ありがとうございました。

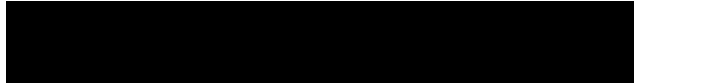
閉会 午後2時27分

上記を第5回新城市総合計画審議会の議事録として確認した。

署名

A black rectangular redaction box covering the signature of the first official.

署名

A black rectangular redaction box covering the signature of the second official.